



JICA2022年度課題別研修「上水道施設技術総合：水道基本計画設計（A）」（10月20日～11月29日）

本協会がJICA（国際協力機構）から受託している課題別研修「上水道施設技術総合：水道基本計画設計（A）」を10月20日～11月29日までの約1ヵ月で実施した。今年度で55回目を迎える本研修は、エチオピア、ルワンダ、ナイジェリア、カンボジア、ラオス、東ティモールの6か国6名の研修員が参加した。



今年度は新型コロナウイルス感染症対策を行いながらオンライン研修と来日研修（対面）のハイブリッド形式で実施した。研修終盤には、実在する都市の地図を用いて自らが水道システムを設計・計画する「水道基本計画演習」を実施し、きめ細かな指導を行った。

水道技術管理者資格取得講習会（福岡会場：11月10日～12月1日）

水道法施行規則第14条第3号による登録機関として、77名の参加を得て、「水道行政・水道経営」、「水質管理・公衆衛生・衛生管理」、「水道基礎工学概論」、「水道施設管理」について15日間の学科講習を実施した。

なお、学科講習修了者は、この後に「水道施設の技術的基準を定める省令第5条」に適合する汜過設備を有する水道施設において、15日間の実務講習を行う。

日本水道協会公式 Twitter の開設（11月14日）

本協会では、会員だけでなく、一般の方からの「声」に対する「受信力」、各種情報の「発信力」をより一層強化するための取組みの一環として、本協会の行事・活動内容や水道界に関することなどをタイムリーに幅広くお知らせする Twitter の公式アカウント「日本水道協会」を開設した。

【日本水道協会公式 Twitter】



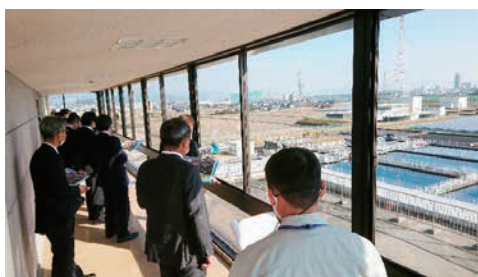
水道技術者研修会（Aコース：11月15日～18日）

水道事業者及び賛助会員の技術系職員（水道歴概ね3年未満）の方々74名の参加を得て、「水道計画」、「導・送・配水施設」、「水道基礎工学」、「水源・取水・貯水施設」、「土木材料及び施工法・水道資材」、「浄水施設」、「機械・電気・計装設備」、「水質管理」、「給水装置」について研修を実施した。

第180回水道技術管理者協議会（11月15日、16日）

初日は、開催地である佐賀県鳥栖市宮原上下水道局長及び本協議会正副議長の挨拶の後、鳥栖市日吉事業課長より「鳥栖市水道事業の概要」について、本協会田村工務部長より「水道を取り巻く環境の変化について」の講演を行った。

翌16日は、佐賀東部水道企業団のご協力のもと、北茂安浄水場の視察を行った。



第186回水質試験方法等調査専門委員会（11月16日）

関塚厚生労働省水道課水道水質管理室基準係長から、令和4年度の水質基準等に係る検討状況、検査方法の改正予定及び今後の検討会の予定等の情報提供があった。

議事に入り、五十嵐委員長進行の下、「震災等の非常時における水質試験方法」の改訂方針に関して審議した。また、水道水質検査に関する告示における試薬等の調製量の記載について問題点等がないか確認することとした。

加えて、分析用ヘリウムガスの供給不足対応や水道水質分析時における残留塩素除去剤の適用拡大に関して情報交換を行った。

その後、無機物、有機物、生物・微生物の各部会に分かれ、それぞれの検討課題に関して討議した。

第137回労務調査専門委員会（11月22日）

委員から提案された情報交換事項として「①技術職員の人材不足に伴う水道技術職員の人材確保について」、「②60歳超職員の担当業務等について」、「③適正な勤怠管理及び給与支給のための仕組み」、「④人材育成の取組について」、それぞれ活発な意見・情報交換が行われた。



第1010回会誌編集委員会（11月25日）

本誌12月・1月号の編集方針、投稿原稿の査読等について審議を行った。

浄水場等設備技術実務研修会（東京会場第6回：11月29日～12月2日）

浄水場・給水所等の運転管理に携わる技術系職員の方々15名の参加を得て、東京都水道局研修・開発センターの訓練用設備を利用して、実際にポンプの分解組立等、機器類の運転・操作及び浄水処理について実習するとともに、設備機器の保守・管理の実務について研修を実施した。

令和5年度水道関係政府予算対策室（11月29日）

来年度水道関係政府予算（水道関係補助金・交付金概算要求額639億円※災害復旧費等を含む）の満額確保に加え、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」による災害に屈しない国土づくりのために必要な予算の確保に向け、令和5年度水道関係政府予算対策室を設置した。



令和4年度第3回運営会議（11月29日）

青木理事長が議長となり、報告事項1「令和4年台風第15号における静岡市の対応状況」、報告事項2「東日本大震災被災地への復興支援」、報告事項3「令和4年度日本水道協会全国会議の実施状況」、報告事項4「令和5年度日本水道協会研修会開催予定」、報告事項5「水道技術管理者資格取得講習会・実務研修受入の事前調査」、報告事項6「IWA（国際水協会）-ASPIRE（アジア太平洋地域）会議・展示会」、報告事項7「日本水道協会における問合せ対応の充実及び情報発信力の強化」について、それぞれ事務局から報告があった。



続いて第1号議案「日本水道協会第101回総会会員提出問題の処理等」、第2号議案「令和5年度日本水道協会全国会議の開催期日及び会場」についての2件が事務局より上程され、審議の結果、第1号議案の「令和4年度補正予算における総合経済対策（電力支援策）について（要望）」を一部修正のうえ決定した。第2号議案は原案のとおり決定した。

会議終了後、第1号議案の議決に基づき、出席委員及び事務局により関係国会議員及び関係省庁に対し陳情を行った。



自民党厚生関係団体委員長 加藤衆議院議員



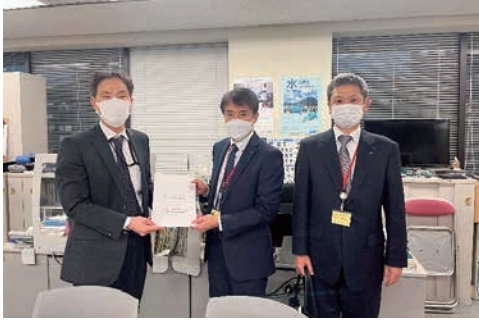
自民党水道事業促進議員連盟顧問
逢沢衆議院議員



公明党上水道・簡易水道整備促進議員懇話会
安江参議院議員



厚生労働省 佐々木大臣官房
生活衛生・食品安全審議官



厚生労働省 名倉医薬・生活衛生局水道課長



総務省 馬場自治財政局官房審議官



国土交通省 岡村水管理・国土保全局長



国土交通省 朝堀水管理・国土保全局水資源部長

第178回水道 GLP 認定委員会（11月29日）

水道 GLP 認定について審議した結果、株式会社東海分析化学研究所（JWWA-GLP010）、下関市上下水道局（JWWA-GLP063）、一般財団法人山形県理化学分析センター（JWWA-GLP108）、株式会社再春館安心安全研究所（JWWA-GLP111）及び公益財団法人秋田県総合保健事業団（JWWA-GLP112）の認定更新を決定した。

また、高知市上下水道局（JWWA-GLP085）及び大津市企業局（JWWA-GLP125）の認定維持、並びに佐賀東部水道企業団（JWWA-GLP070）、北千葉広域水道企業団（JWWA-GLP071）、一般社団法人群馬県薬剤師会（JWWA-GLP116）及び高槻市水道部（JWWA-GLP117）の認定延長を決定した。

水道技術者研修会（Bコース：11月30日～12月9日）

水道事業体及び賛助会員の技術系職員（水道歴概ね3年以上）の方々66名の参加を得て、「水道計画」、「水道基礎工学」、「導・送・配水施設」、「土木材料及び施工法・水道資材」、「水源・取水・貯水施設」、「浄水施設」、「機械・電気・計装設備」、「漏水防止実習」、「水質管理（概論）」、「水質管理（浄水処理・送配水）」、「水道の危機管理」、「給水装置」について研修を実施した。

また、研修会初日に行われたグループ別ディスカッションにおいては、活発な情報交換が行われた。

第163回水道事業管理者協議会（11月30日）

はじめに、浜松市上下水道課 竹田副技監より『浜松市上下水道キッズサイト「すいすいクラブ」による広報活動』をテーマに発表を行った。

次に、メンバー都市から提案された情報交換事項「①給水車運転に係る運転免許証（準中型）の取得について」、「②電気代の高騰が水道事業に与える影響について」、の2題について、それぞれ情報交換を行った。



最後に、日本水道協会公式 Twitter の開設等、日本水道協会の受信力・情報発信力の強化に向けた取り組みについて、事務局から説明があった。

配管設計講習会（関西会場：12月7日～9日）

水道事業体及び民間企業等において配管設計の経験が少ない水道技術者の方々50名の参加を得て、「水道の課題と設計業務」、「配管設計・積算の基礎知識」、「製図の基本」、「管路（GX形）の製図演習」、「積算の基本」、「管路（GX形）の積算演習」について研修を実施した。